

## menu

- 積極的に、そして結果としてもSDGsにつながる暮らしと仕事
- 日野川フォトコンテスト2023
- 小さいからこそできる 持続可能な日野郡を創る新たな取組が始まります
- 日南トマトが過去最高販売額を達成!!
- 全国トップクラスの良食味への取組み
- 農作業事故に注意!
- 第1回 退職者就農セミナーを開催しました
- 鳥取県版 河川・道路ボランティアをはじめませんか?
- 日野郡で輝く人 奥ひの青パイヤ研究会(川北皓貴会長)
- 新人職員 農林家研修体験記

## 令和5年度ふるさとづくり大賞

中村代表は、寄木細工に森林環境や木に対する想いを込め、小さな集落から世界へその価値を発信していることが認められ、令和5年度ふるさとづくり大賞 個人表彰(総務大臣表彰)を受賞されました。おめでとうございます！



◀色が違う17種類の木材から作ったSDGsシンボルバッジ。メンテナンス次第で長持ちするので製品そのものがSDGs！



◀オリジナルロゴはこちら

SDGsというと、まっさきに「環境」のイメージが強いですが、実は「経済」の面も含めてその土地での一人ひとりの生活を上げていくという点も「持続可能な地域づくり」には必要なことではないでしょうか。

この記事では、そうした観点から白谷工房 中村代表にご登場いただきました。「心身ともに無理をせず、『足る』を知りつつ、これまでとは違う発展をめざす」というSDGsにつながる活動をみなさんのまわりに探してみませんか。

故郷・日南町のために  
日南町が好き、と断言する中村代表。白谷工房が「日南町の若者の雇用先になるよう事業拡大を視野に入れ、中村代表が前面に出る工房ではなく、安定したクオリティを持った製作集団として地域で続いてほしい」という将来ビジョンについても語られました。

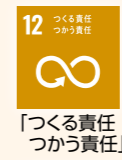
そう、それはSDGs目標の「住み続けられるまちづくりを」につながりますね。

11 住み続けられるまちづくりを  
「住み続けられるまちづくりを」

端材などを材料として、素材そのままの色を活かした、シンプルかつモダンなデザインのアクセサリーや生活雑貨が人気の寄木細工「白谷工房」(日南町福塚)。

白谷工房の代表、中村建治さんへのインタビューから見てきたSDGsにつながる暮らしのあり方とは…

もったいないと思っ  
「つくる責任 つかう責任」



15 陸の豊かさも守ろう  
「陸の豊かさも守ろう」



中村代表は20年間大工をしていますが、その時、民家を解体した廃材や現場で出た端材が捨てられるのを減らしたいと感じ、木を大切にしたいという思いから、テレビで見た寄木細工を独学で身につけ、製品づくりに取り組むはじめました。デザインも自身によるもの。本格的にデザインを学んだ経験はないというので驚きます。

ほかの大工さんたちも木の廃棄を  
「つくる責任 つかう責任」

て、やむなく廃棄するのだ、と。そんな中、日南町の閉園した保育園に工房を開き、一定の大変さはあるけれど廃材を活かす道を得た中村代表は今、スタッフも数名雇用し、工房を順調に成長させています。

製品のクオリティを守りながら、自身の生活のクオリティも上げる。



8 働きがいも経済成長も  
「働きがいも経済成長も」



白谷工房では、素材の虫食いや穴あきも独自の味わいとして製品に活かします。けれども、それは工房内の装飾品や注文主と合意した上でのごこと。通信販売をするアクセサリーには仕上がりのむらが出ないよう一定レベルの素材



「木を無駄にしないために品質のばらつきを受け入れよう」ということはありません。だから白谷工房の製品はこれほど人気なのでしょう。

中村代表は、最初の3年ほどは寄木細工と大工を並行していましたが、工房專業となった今、自身の生活も大きく変わったとのこと。まず、大工時代と違って、現場に行く必要がなくなり、自ら仕事のペースが決めやすくなったので、家族との時間も多く持てるようになったそうです。

さらに事業は拡大してきたので、大工からの転業にまったく後悔はない、と語ります。

## 日野川フォトコンテスト2023

日野川の源流と流域を守る会では、日野川の自然、山、森、里山の風景、流域の人々の生活文化などを題材にフォトコンテストを毎年開催しており、2023年もたくさんの方から御応募いただきました。その中から選ばれた一般部門、スマホ部門のそれぞれの最優秀賞であるグランプリ作品を紹介します。



日野川の恵み

細田 眞徳さん



【作品への思い】  
日野川の豊かな自然環境があってこそ生息できるたくさんの貴重な生き物達、実際に躍動する姿を見て感動しました。

石丸なつ子特別審査員の講評

日野川の持つ表情を珍しい場面、珍しい時間帯に撮影した作品を選びました。どちらの作品も日野川の良い表情が撮れています。



※その他の入賞作品は、当会のHP  
(<https://www.pref.tottori.lg.jp/315407.htm>)をご覧ください。



日野川の夜明け

井上 勝博さん



【作品への思い】  
波がなく穏やかな日野川河口は息を呑むような美しさです。是非沢山の人に日野川の美しさを知ってもらいたいです。

会員募集

「日野川を日本一の美しい川」にするため、日野川の源流と流域を守る会の活動に参加しませんか？  
当会の活動に興味をお持ちの方は、事務局までお問合せください。

過去最高販売額達成

# 日南トマトが過去最高販売額を達成!!

—令和5年度販売額が5年ぶりに2億円を突破しました—

日南トマトは現在生産者40名、栽培面積5.35haで栽培されています。本年度は異常気象により熱中症警報が多数発令される中、トマトの病害も多発するなど生産者にとってもトマトにとっても非常に過酷な栽培環境でした。この傾向は他県の主要産地でも同様であり、全国的に出荷量が大幅減少したことで販売単価が近年にない高価格となりました。

日南町では生産者が適正時期に気温に合わせた栽培管理の徹底や定期的な病害虫対策を実施したことで、反収9.2t(過去3位)の好成績となり、過去最高の販売額2億1798万円を達成することができました。

過去最高販売額の達成を受けて、12月14日に祝賀会が開催され、生産者の代表と関係者で共に喜びました。

挨拶の中で岩田生産部長は、「販売額2億円にとどまらず3億、4億を目指したい」という意気込みを語り、生産部では来年度に向けて大いに士気が高まりました。

来年度も最高販売額の更新を目指して、関係機関一体となって生産者をサポートしていきます。

問日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2025 FAX:0859-72-2090



▲来年度への意気込みを語る岩田生産部長

# 小さいからこそできる持続可能な日野郡 を創る新たな取組が始まります

全国的に人口減少や経済の悪化が社会問題となっていますが、日野郡には「小さい」からこそ、新たな課題に迅速に対応できるというメリットがあります。

この強みを生かして、住民サービス向上に繋げる人材育成や、豊かな自然・文化等の地域資源を活用した誘客促進により「住み続けたい」と感じられる日野郡を目指し、日野郡3町と県が連携して新たに3つの取組をスタートしました。

## 1 日野郡ウチまち化プロジェクト

3町の若手職員が進めるプロジェクトにより、地域の若者が地元のためにできること・やりたいことを企画し実現するプロセスの中で、課題に直面し解決策を考えることを通じて政治の意義に気づき、将来的に政治参画に繋がることを目指します。

若者が日野郡愛を主張するイベントや、地域を元気にするイベントの企画など、活動を通じて若者同士の繋がりを広げています。

## 2 日野郡内保育所・こども園(保育士・保育教諭)の交流

日野郡の子どもたちは、保育所から中学校の間、単一クラスで過ごすことになり、絆が深まる一方で人間関係の固定化が心配されるため、よりよい友人関係を築く力など意図的に場づくり等をする必要があります。日野郡内の保育・教育関係の職員が交流し、互いに他町の保育環境や活動状況を知り視野を広げることで、実践力を高め幼児教育の充実を目指します。

## 3 日野郡サイクリングルート設定による自転車活用の推進

3町を南北に繋ぐルートを設定し西部圏域のサイクリングルートを広域化することで、誘客促進、交流人口の拡大を図り、「県内どこでもサイクリングが楽しめる環境づくり」を日野郡でも進めます。

また、3町共同の「自転車活用推進計画」策定を検討し、様々な場面で自転車の活用を目指します。



問日野振興局 地域振興課 電話:0859-72-2075 FAX:0859-72-2072

# 全国トップクラスの良食味への取組み

## ～米コンテストの開催結果～

日野郡では毎年「日野川源流米コンテスト」を開催し、郡内および旧溝口町の米の美味しさを審査し、表彰しています。近年は新型コロナウイルス感染拡大防止のため、機器計測した食味値と品質のみで審査していましたが、令和5年は4年ぶりに、一般消費者100人(10月22日農と食のフェスタinせいぶ来場者)に、出品数121点中機器審査の上位4点の米を炊飯し食べ比べてもらい、順位を決定しました。

最優秀賞は、日南町の村上讓さんが栽培した「コシヒカリ」が受賞しました。

また、日野郡の米は、各種コンテストでも上位入賞し、全国トップクラスの美味しさが証明されました。



令和5年11月2日  
日野川源流米コンテスト 授賞式  
(写真中央:最優秀賞 村上讓さん)



令和5年12月3日  
全日本お米グランプリin北広島 授賞式  
(写真:ノータス研究所)

広島県で開催された「第2回全日本お米グランプリin北広島(令和5年12月、主催:北広島町、出品数:289点)」で、日南町のノータス研究所(株)の「ゆうだい21」がグランプリを受賞し、全国1位となりました。

また、「第17回あなたが選ぶ日本一おいしい米コンテストin庄内町(令和5年11月、主催:山形県庄内町、出品数:500点)」では日南町の(農)エコファームHOSOYAの「コシヒカリ」が上位6点に入賞しました。「第25回米・食味分析鑑定コンクール:国際大会(令和5年12月、主催:米・食味鑑定士協会、出品数:5092点)」でも江府町の奥大山プレミアム特別栽培米研究会の「きぬむすめ」が入賞しました。

いずれの生産者も「猛暑で栽培管理に苦労したが報われた。今後も美味しい米づくりに励みたい」と喜んでいます。

問日野振興局 日野農業改良普及所 電話:0859-72-2028 FAX:0859-72-2090

## 第36回全国健康福祉祭とっとり大会

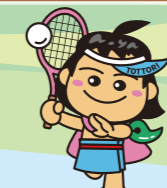
# ねんりんピック はばたけ鳥取2024

咲かせよう 砂丘に長寿と 笑みの花

令和6年10月19日(土)~22日(火)



民謡  
(日南町開催)



ソフトテニス  
(日野町開催)



バウンドテニス  
(江府町開催)



# 募集する 活動内容

- 道路の清掃、除草又は植栽管理若しくは歩道除雪
- 河川の清掃、除草又は植栽管理
- 公園の整地、清掃、除草又は植栽管理



鳥取県では、県管理の道路、河川、公園の清掃・除草等をしてくださる活動団体（鳥取県土木施設愛護ボランティア）を募集し、支援を行っています。日野地区では、現在、33団体がこの支援を利用しています。皆さまの身近にある環境の美化や維持管理の活動をお考えの場合は、ぜひご応募ください。

## 鳥取県版

# 河川・道路ボランティアを

# はじめてみませんか？

### 参画型ボランティア促進事業

自主的な環境美化等（清掃・除草・除雪等）を行う団体に対し、活動の実施に必要な援助を行います。

#### 【支援条件】

人数・活動規模は問いません。青年団、老人会、スポーツ同好会等の任意の団体でご応募ください。

#### 【奨励金】

参加者 100円/人・時間  
草刈機等 100円/台・時間  
(上限10万円/年)



### 協働型ボランティア促進事業

県とのパートナーシップに基いて協定を結び、一定区間の維持管理(除草、植栽管理、除雪等)を行う団体の活動を支援します。

#### 【支援条件】

青年団、老人会、スポーツ同好会等の任意の団体かつ10名以上でご応募ください。  
活動規模：道路 0.5km以上、河川 0.2ha以上、植栽枡 50㎡以上

#### 【交付金】

河川・道路・公園等 40円/㎡  
植栽枡 500円/㎡  
歩道除雪 20円/㎡  
(上限40万円/年、ただし歩道除雪は20万円/年)

### スーパーボランティア支援事業

公園、河川敷等を活用した地域づくりや賑わい創出の活動と併せて、適切な維持管理を継続して行う団体の活動を支援します。

#### 【支援条件】

活動規模：活用する公共空間の範囲  
※鳥取県土木施設愛護ボランティアに登録している団体で、過去に活動区域において地域づくりや賑わい創出を目的とした活動を行った実績のある団体が対象です。

#### 【交付金】

河川・道路・公園等 40円/㎡  
植栽枡 500円/㎡  
(上限60万円/年)  
【簡易施設設置交付金】  
施設設置の原材料費等の額  
(1団体につき 50万円まで)

※事前にボランティア団体の登録及び協定の締結が必要です。詳しくは下記までお問い合わせください。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話：0859-72-2047 FAX:0859-72-2092

## 農作業事故に注意!



鳥取県では過去10年間で33件、日野郡内でも3件の農作業死亡事故が発生しており(令和5年11月末までに県に報告のあった件数)、そのうち6割以上が乗用型トラクターと動力運搬車によるものです。農業機械を利用する際には、安全な操作方法を確認し、シートベルトを着用する等の安全対策を行いましょう。

### 乗用型トラクター

**主な事故：傾斜地や狭い進入路、ほ場の端から法面への転落・横転等。**

- 安全対策**
- ① 進入路等の危険箇所の確認と幅・勾配の改良
  - ② 作業終了後は、ほ場を出る前にブレーキを連結
  - ③ 安全キャブ・フレームとシートベルト及びヘルメット着用の徹底

### 動力運搬車

**主な事故：想定方向と逆方向に走行してひかれる。車体と後方の壁や物との間に挟まれる。**

- 安全対策**
- ① エンジン始動時の操作レバーは中立にする
  - ② 発進前に走行レバーの進行方向を必ず確認
  - ③ 後退時には後方や足下の状況を確認



◀ 令和5年11月2日にふるさと日南邑(日南町神戸上)で郡内初となる3町合同の農作業安全対話型研修会を行いました。

※『対話型研修』とは、農業者自身が経験した危険体験を仲間と共有し改善点を話し合うことで、農業者自身や組織が取り組む安全対策のレベルアップを図る取組です。

今回の研修会は、日野郡中山間営農ネットワーク協議会員(農業法人等11名)の方を中心に開催しました。参加した多くの方の農作業中の危険体験から、『ほ場進入路の安全対策』や『農業機械のぶつけ・衣服のひっかけり防止』等をテーマに、班に分かれて安全対策を話し合いました。最後は、班ごとに話し合った結果を発表するとともに、農作業を行う際の注意点を安全宣言としてまとめました。皆で話すことで、農作業現場や服装の改善に向けたアイデアが多く出るとともに、だれもが取り組める具体的な安全対策をまとめることができました。対話型研修やその他の農作業安全対策について、研修希望や関心のある方は下記までご連絡ください。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話：0859-72-2028 FAX：0859-72-2090  
農林業振興課農業振興室 電話：0859-72-2003 FAX：0859-72-2011

## 第1回 退職者就農セミナーを開催しました

～ 日野郡特産野菜で儲けてみませんか～

令和5年10月15日、JA鳥取西部日野支所にて、退職者就農等で野菜栽培に興味のある方を対象に就農セミナーを開催しました。

本セミナーは、日野郡特産野菜の新規栽培者確保を目的に、日野郡3町・JA・日野振興センターが合同で初開催したもので、トマト・ピーマン・白ネギの栽培の基礎と日野郡営農モデル\*を紹介しました。

参加者は6名と少なかったですが、特にトマト栽培への関心が高く、近いうちに栽培したいと希望する方が数名おられました。

今後は、これらの希望者への支援を行うとともに、セミナーを定期開催して日野郡特産野菜の新規栽培者確保につなげていきたいと考えています。



▲第1回退職者就農セミナーの様子

※日野郡営農モデル：日野農業改良普及所が作成し、就農者タイプ(新規就農・集落営農法人・退職者就農・年金受給ゆとり)ごとに日野郡でトマト・ピーマン・白ネギを栽培した場合に必要な初期投資内容、時期別の1日当たり労働時間、所得目標等を試算した営農計画。日野郡内の就農相談に活用している。

日野振興局 日野農業改良普及所 電話：0859-72-2025 FAX:0859-72-2090

★ スーパーフードはおいしく食べて、景色も美しく ★  
奥ひの青パイヤ研究会(川北皓貴会長)



▲会員のみなさん(中央が川北会長)

5年前、2人で栽培を始めた“スーパーフード”青パイヤも、今では日野町の新たな特産品として郡内にも知られてきたところでしょうか。

会員も5人に増え、栽培ノウハウをつかんだ研究会のみなさんは、次々と加工品を開発しています。青パイヤの酵素で肉が柔らかくなったジビエカレー、おやつにぴったりのセミドライフルーツ、3種類の味で展開しているジャムなど多彩！(金持テラス内のまめなか屋さんで販売中)。これなら調理方法がわからない人も気軽に食べられますね！



▲カレー、セミドライフルーツ、乾燥パイヤ

実は、「最初は、“遊び”で始めました」(会員談)。雪が積もる日野町で南国の果物が露地で育つなんておもしろい、それに青パイヤ栽培が広がり遊休農地が減ったら美しい日野町を保っていきける…そんな思いから町内の協力者に苗を分けていき、栽培面積も増加しています。



▲アップル、プレーン、オレンジ&鬼柚子のジャム♪

高い国内シェアを狙っているものではないそうですが、栽培5年目でここまで来たからには、と現在も新たな商品開発にチャレンジ中(まだヒミツ♪)。いずれは青パイヤ関連商品を目当てに日野町に来てくれる人が出れば、という意気込みで、ますますがんばってられます！

関日野振興局 地域振興課 電話：0859-72-2086 FAX:0859-72-2072

新人職員 農林家研修体験記

農林業振興課 農林技師 小林 直登

〈研修先〉

大山町 林業経営者 清水 泰さん

〈研修内容〉

9月25日～28日の4日間にわたり、スギやヒノキ、大山アカマツなど、約90ヘクタールの森林を保有する林業経営者の指導により林業作業を経験しました。

〈学んだこと・感想〉

研修では、雪害により森林内の作業道に倒れていた木を、チェーンソーとグラップルを用いて枝払いや玉切り処理を行い、木材市場へ搬出するという木材生産の一連の流れを体験させていただきました。車両が通行できないほど草が繁茂していた作業道の草刈りも行い、作業に必要な道の維持の大変さも実感しました。

また、清水さんから土壌による大山アカマツの成長の違いといった森林の知識のほか、木材は30年ほど経たないと収益が出ないことなど、林業経営にまつわる貴重なお話をお聞きしました。私は現在、森林保全に関する業務に従事していますが、今回の研修での経験を活かし、今後の業務に努めてまいります。



▲枝払いに挑戦(左:清水氏、右:小林)



▲枝払いした材を4mごとに玉切り

関日野振興局 農林業振興課 電話：0859-72-2020 FAX:0859-72-2125

表紙  
写真

【タイトル】佐川の桜並木 【撮影者】江府町地域おこし協力隊 小林 大二

【撮影者コメント】桜並木が美しい、江府町佐川。カメラやスマホで撮影してももちろん綺麗ですが、今回はドローンを使用して空撮してみました。見慣れた景色でも空から撮影すると全然違った景色に見えて、とても新鮮です。